

# 平成30年度事業報告書

平成30年4月1日から平成31年3月31日まで

特定非営利活動法人石西礁湖サンゴ礁基金

## 1 事業の成果

調査研究・モニタリング等事業では、29年度に続き、WWF ジャパンと協働して「サンゴ認定制度構築へ向けての調査研究」を行った。30年度から、地球環境基金フロントランナー助成を受け、外部専門家を含めての調査研究ミーティング、参考事例となる米国オレゴン州における「サーモンセーフ認証」の視察を行った。また、サンゴ礁生態系影響調査及び認証事例調査等を実施した。これらの成果を踏まえ、持続可能な観光をテーマとするフォーラムを開催し、関係者、住民多数の参加があった。

攪乱要因除去事業のうち、「環境保全型農業の推進」では、農地の末端への防風林の形成を目指して植えたツバキ苗の育成管理を行った。成長後は、防風林や赤土流出対策の効果のほか、種から油を搾り収益を得ることも期待している。

広報啓発事業では、前年度に引き続き、「石垣港みなとまつり」「石垣島まつり」等において、石西礁湖の現状・自然再生の必要性・当法人の活動等について、住民等の理解を深めるための活動を行った。

また、「畑と海をつなぐサンゴのまつり」を、28・29年度に続き、崎枝公民館、「石垣島をもっと元気にするプロジェクト（芝浦工業大学学生）」との共催で行った。赤土流出の少ないサトウキビ株出し栽培の苗補植体験などを通じ、農地における対策、一般に陸域からの環境負荷を減らすことがサンゴ礁再生のために重要であることを広く知ってもらうことを目指した。環境省石垣自然保護官事務所の協力、石垣市赤土等流出防止営農対策地域協議会の後援を得たほか、八重山農林高校の生徒たちがスタッフとして加わり、近隣地域をはじめ多くの方の参加があった。

このほか、「国際サンゴ礁年2018」に合わせて開催された「やえやまサンゴカフェ」に参加し、シュノーケリングツアー実施のほか、運営への協力を行った。

また、2016年のサンゴ大白化のあとの回復を知ってもらう、「2018年夏 元気なサンゴたち再び！情報発信プロジェクト」に参加し、ウェブサイトでの情報発信を行った。

([http://hakka2016pjt.sangokikin.com/?page\\_id=709](http://hakka2016pjt.sangokikin.com/?page_id=709))

環境教育では、市内2高校の高校生を対象として、サンゴ礁保全のための赤土対策の必要性と手法等について、外部講師を招き、特別授業を行った。特に、八重山高等学校では、3回に分け、2年生全員240人が参加した。また、小中学生を対象とする環境教育を行う団体を支援し、小学生を対象とするサンゴの学習、中学生を対象とする生物多様性の学習を行った。生徒たちが、将来におけるサンゴ礁保全・再生活動の担い手として育つことを期待している。

## 2 事業の実施に関する事項

### (1) 特定非営利活動に係る事業

定款の 事業名	事業内容	実施 日時	実施 場所	従事者 の人数	受益対象者の 範囲及び人数	事業費の 金額 (千円)
攪乱要因除 去事業	オニヒトゲ駆除 (実施しなかった)	—	—	—	—	0
	サトウキビの株出し推 進による赤土流出防止 (実施しなかった)	—	—	—	—	0
	様々な手法による農地 からの赤土流出防止 (実施しなかった)	—	—	—	—	0
	環境保全型農業の推進	平成30年 4月～ 31年3月	石垣島内 農地	2人	農家、住民、観光客 等多数	0
良好な環境 創成事業	実施しなかった					
持続可能な 利用に関する 事業	実施しなかった					
調査研究・モ ニタリング 等事業	サンゴ認定制度構築へ 向けての調査研究	平成30年 4月～ 31年3月	石垣市内	5人	住民、観光客等多数	4395
広報啓発事 業	地域イベント等におけ る広報啓発	平成30年 7月～ 31年3月	石垣市内 会場等	20人	住民、観光客等 400人	207
	地元小中高校生対象の 環境教育	平成30年 4月～ 31年2月	石垣市内 等	10人	地元小中高校生 335人	643
その他目的 を達成する ために必要 な事業	実施しなかった					

(2) その他の事業

定款の 事業名	事業内容	実施 日時	実施 場所	従事者 の人数	事業費の 金額 (千円)
物品等販売 事業	実施しなかった				
イベント等 開催事業	実施しなかった				
印刷物等へ の広告掲載 事業	実施しなかった				
商標等の提 供事業	実施しなかった				